

2/24 空港開港 100 年記念マンホールふたデザイン  
最優秀賞に渡部徹夫さん



千歳市水道局が、今年に迎える千歳市空港開港 100 年を記念し、マンホールふたのデザインを募集。応募総数 11 点の中から、市内在住の渡部徹夫さんの作品を最優秀賞に選出しました。2月 24 日には授賞式が行われ、石田 肅一 公営企業管理者から渡部さんに賞状と記念品が贈呈されました。作品は、100 年前の千歳村につくられた小さな着陸場が、現在の空港へと発展してきた歴史の一端を表現したもので、渡部さんが「どうしても入れたかった」と話す政府専用機と「北海」第 1 号を配置。このデザインをもとに現在、実物のマンホールふたを製作中であり、授賞式にて渡部さんは、「できあがり本当に楽しみでなりません」と喜びを話しました。マンホールふたは今春から順次、グリーンベルトや道の駅など市内の数か所に設置予定です。

2/17 “ありがとう”の気持ちを込めて  
せいあこども園へゆきおくり



認定こども園 千歳青葉幼稚園から、姉妹都市である鹿児島県指宿市の《せいあこども園》へ雪が贈られました。この交流は指宿市からの贈り物のお礼として平成 9 年から続くもので、今年度も昨年の 12 月に届いたサツマイモと絵画への感謝を込めて準備されました。「ゆきおくり、がんばるぞ〜！」と先生の元気な掛け声と園児たちの力強い声が響き渡り作業がスタート。子どもたち自ら絵を描いたオリジナル発泡スチロールに、真っ白な雪をぎっしりと詰め込みました。ほとんど雪が降らない指宿では、この雪のために手袋を新調して待つ子もいるほど。職員 孝 園長は「遠く離れた場所にもお友達がいることを知り、感謝の気持ちを育ててほしい」と、この伝統ある交流への想いを語りました。

2/8 ニューサンロードにぎわいフェスタ  
寒さを忘れる、夢のステージ



寒中綱引き大会や音楽ステージで熱気に包まれた「2026 ニューサンロードにぎわいフェスタ」。その会場で、誰よりもこの日を心待ちにしていたのが園部 杏さん(日の出小 1 年)でした。お目当ては憧れの《ファイターズガール》。ステージを待つ間、ここでしか味わうことができない特性ジンギスカンをパクリ。「寒い中で食べるお肉もおいしい」と落ち着いて話す杏さんですが、頭の中はファイターズガールでいっぱい。いざパフォーマンスが始まると、球場よりもずっと近い距離に大興奮。「将来はファイターズガールになりたい」と目を輝かせ、夢のようなひとときを満喫していました。

2/11 第 50 回ちとせホルメンコーレンマーチ  
駆ける！ 投げる！ 引く！



千歳の冬を象徴するスポーツフェスティバル《ちとせホルメンコーレンマーチ》が開催されました。記録的な雪不足に泣いた昨年を経て、2 年振りの今大会は絶好のピッチコンディション。駐日ノルウェー大使のクリスティン・イグルムさんの激励を合図にクロスカントリーや雪合戦、小学生による 5 色綱引きが幕を開けました。それぞれの会場で熱い戦いが繰り広げられ、駆け付けた観客のボルテージも最高潮。千歳雪合戦に出場した古川 道孝さんは「全員倒すつもりで挑みましたが、そう簡単にはいかなかった」と苦笑しつつも、充実した表情で話してくれました。

2/11 北海道コンサドーレ札幌バドミントンクリニック  
プロの技を間近に



富丘コミュニティセンターで市内の少年団を対象とした《北海道コンサドーレ札幌バドミントンチームクリニック》が開催されました。当日は柴田 拓実選手ら 3 選手と吉田 仁監督が訪れ、国内トップリーグで培った技術や考え方を指導。プロ選手とのミニゲームではポイントを取るなど健闘した向陽台みらくる Jr 少年団の青山 楓さんは、「相手の体勢を崩すショットなど作戦通りにプレーできた。今日学んだことを一生懸命練習して自分のものにしたい」と意気込みました。最後には吉田監督から「この中からコンサドーレの選手が誕生することを願っている」と次世代のスターたちへ熱いエールが送られました。

**人々のうごき**

《総人口》  
96,894 人 (-64)  
男性 49,311 人 (-49)  
女性 47,583 人 (-15)  
《世帯》52,750 世帯 (-22)

( ) 内は、前月との比較です。

3-1 現在

**広報ちとせからのお知らせ**

広報ちとせの発行日は毎月 10 日です。この日までに届かないときは、次の番号にご連絡ください。なお、町内会に加入しているしていないを問いません。

広報広聴課 広報係  
☎(24)0104 FAX(22)8851

手づくりの着陸場から新千歳空港へ開港 100 年の歴史を振り返る

ちとせ空港  
Vol.35  
念願の国際空港

**百年物語**

新千歳空港開港の日  
昭和 63 年 7 月 20 日、供用を開始した新千歳空港では、開港記念のセレモニーが行われました。梅沢健三市長らによるテープカットののち、待機していた ANA の第一便が離陸を開始。完成したばかりの 3000m 滑走路から、東京へ向け飛び立っていきました。直後には、アラスカを出発した国際貨物便 4 機が到着。北米産の紅ザケなどを満載した JAL の

テープカットののち、待機していた ANA の第一便が離陸を開始。完成したばかりの 3000m 滑走路から、東京へ向け飛び立っていきました。直後には、アラスカを出発した国際貨物便 4 機が到着。北米産の紅ザケなどを満載した JAL の

ジャンボ機 2 機とアメリカの航空会社の 2 機が、約 300 トンの農水産物を運んできました。着工から 13 年の歳月を経て、ついに開港した新千歳空港。北の空の玄関口として、また念願の国際空港として、新たなスタートを切りました。

新千歳空港開港記念セレモニー  
エメリー・ワールドワイド機 (米国)  
フライング・タイガー機 (米国)  
JAL 貨物専用ジャンボ機



まちのできごと・マンスリーでお知らせします。